

令和7年用すもも病害虫防除基準

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）	収 穫 前 使用日数	総使用 回 数	10a当たり 散布量	注 意 事 項 （収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴
① 落葉後 休眠芽 前期		1. 水 （98ℓ）			300～ 400ℓ	1. 石灰硫黄合剤10倍（発芽前、－）を使用 する場合は、この防除の7日前まで散布 を終わらせる。 2. 温暖な日を選び主幹部にもかかるように ていねいに散布する。また、かかりにく い場所では手散布を実施する。 3. ふくろみ病対策としてトレノックスフロア ブル500倍（14日前まで、3回以内）を加 用してもよい。 4. ハーベストオイルに替えてスプレーオイ ル50倍（発芽前、－）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	カイガラムシ類幼虫	2. アプロードフロアブル 1,000倍（100mℓ）	14 日 前 ま で	2 回以内			
	カイガラムシ類	3. ハーベストオイル 50倍（2ℓ）	発 芽 前	－			
黒花病 【特別 対策】	黒 斑 病	1. I C ボルドー412 30倍（3.3kg）	－	－	400ℓ	1. 黒斑病が多発傾向にあるので本防除を徹 底する。また、密度低減を図るため、被 害葉や被害果は見つけしだい摘除し、土 中深く埋め園内地表面に放置しない。	散布日 月 日 散布量 ℓ
シンクイムシ 【特別 対策】	ナシヒメシンクイ スモモヒメ シンクイ	1. ナシヒメコン 100本／10a	－	－	－	1. 下記交信かく乱剤の使用上の注意事項を 参照し、開花前に設置する。	設置日 月 日 設置量 本
② 満開 3日 後		1. 展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）			400ℓ	1. 灰星病予防の重要な時期にあたるので、 時期を失わないよう散布する。 2. 訪花昆虫保護のため隣接園の飛散には十 分注意し、ハチの活動の少ない早朝に散 布する。 3. ハマキムシ類の発生する園ではエクシレ クSE2,500倍（前日まで、3回以内）を 散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	灰 星 病	2. ロブラール水和剤 1,500倍（66g）	前日まで	3 回以内			
③ 巣箱 撤去 上旬	灰 星 病	1. ベルコートフロアブル 2,000倍（50mℓ）	3 日 前 ま で	3 回以内	400ℓ	訪花昆虫を保護するため、今回の防除は 巣箱を撤去してから散布する。 1. ふくろみ病の被害果は見つけしだい摘み 取り、土中深く埋める。 2. 黒斑病は雨により感染するので、 降雨前 に防除する。 3. 黒斑病の発生が多い園では、マイコシー ルドに替えて、アグリマイシンー100 1,500倍（30日前まで、2回以内）を使用 してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	黒 斑 病	2. マイコシールド 2,000倍（50g）	21 日 前 ま で	3 回以内			
	アブラムシ類 シンクイムシ類	3. モスピラン顆粒水溶剤 ^㉔ 2,000倍（50g）	前日まで	3 回以内			
④ 果実の大き さが中下 旬で旬		1. 展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）			500ℓ	1. サイアノックス水和剤に替えて、アグロ スリン水和剤1,000倍（前日まで、2回以 内）を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	黒 斑 病	2. マイコシールド 2,000倍（50g）	21 日 前 ま で	3 回以内			
	灰 星 病 （環紋葉枯病）	3. ナリアWDG 2,000倍（50g）	前日まで	2 回以内			
	アブラムシ類 シンクイムシ類	4. サイアノックス水和剤 1,000倍（100g）	21 日 前 ま で	2 回以内			
⑤ 回収 散布 10日 上旬 後旬		1. 展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）			500ℓ	1. 黒斑病が多い園ではマイコシールド2,000倍 （21日前まで、3回以内）を使用する。 2. モベントフロアブルを使用した場合、同系 統のダニゲッターフロアブルは使用しない。 3. コスカシバの発生が多い園では、6月上旬 にスカシバコンL40～100本／10aを設置する。 シンクイムシ類の被害果は見つけしだい摘み 取り土中深く埋め、園地内地表面に放置しない。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	灰 星 病	2. ロブラール水和剤 1,500倍（66g）	前日まで	3 回以内			
	シンクイムシ類	3. テッパン液剤 2,000倍（50mℓ）	前日まで	2 回以内			
	カイガラムシ類 アブラムシ類 ハダニ類	4. モベントフロアブル 2,000倍（50mℓ）	7 日 前 ま で	3 回以内			
⑥ 6月 中 旬	灰 星 病	1. ベルコートフロアブル 2,000倍（50mℓ）	3 日 前 ま で	3 回以内	500ℓ	ハダニ類の多い園では、下記の殺ダニ剤のい ずれかを使用する。 ・スターマイトフロアブル 2,000倍（前日まで、1回） ・カネマイトフロアブル 1,000倍（3日前まで、1回） ・ダニオーテフロアブル 2,000倍（前日まで、1回） 1. 例年ナシヒメシンクイ・スモモヒメシン クイが多い園では、6月下旬～7月上旬 にナシヒメコン50本／10aを追加設置する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	カメムシ類 アブラムシ類	2. ダントツ水溶剤 2,000倍（50g）	3 日 前 ま で	3 回以内			
品 種 ご と の 収 穫 開 始 時 期 を 考 慮 し 、 各 薬 剤 の 収 穫 前 使 用 日 数 を 厳 守 す る 。							
⑦ 大石 収穫 前生	灰 星 病	1. オーシャインフロアブル 3,000倍（33mℓ）	前日まで	3 回以内	500ℓ	1. オーシャインフロアブルはうり科の野菜 に薬害のでる恐れがあるので注意する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 シンクイムシ類	2. スカウトフロアブル ^㉔ 2,000倍（50mℓ）	前日まで	3 回以内			

散布時期	適用病虫害	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）		収穫前 使用日数	総使用 回数	10a当たり 散布量	注 意 事 項 （収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴				
収⑧ 穫大石 直早生 後	灰星病	1. ナリアWDG 2,000倍（50g）		前日まで	2回以内	500ℓ		散布日 月日 散布量 ℓ				
	シンクイムシ類	2. エクシレルSE 2,500倍（40ml）		前日まで	3回以内							
散布時期	適用病虫害	中生種	中・晩生種	晩生種		10a当たり 散布量	注 意 事 項 （収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴				
⑨ 8月上 旬	灰星病	1. スコア顆粒水和剤 2,000倍（50g）（前日まで、2回以内）			500ℓ	500ℓ	1. ハダニ類の発生の多い園では、コロマイ ト乳剤1,000倍（前日まで、1回）を単剤 で使用する。 2. すず点病の多い園では、かかりむらのな いように防除を実施する。 3. オーシャインフロアブルはうり科の野菜 に薬害のでる恐れがあるので注意する。 4. 降雨が続く場合、フリントフロアブル散 布後、オーシャインフロアブル3,000倍 （前日まで、3回以内）を使用する。	散布日 月日 散布量 ℓ				
	アブラムシ類 （シンクイムシ類）	2. バリアード顆粒水和剤㉔ 2,000倍（50g）（前日まで、2回以内）										
⑩ 8月中 下旬	灰星病 炭疽病		1. フリントフロアブル25 2,000倍（50ml） （前日まで、2回以内）		500ℓ	500ℓ		散布日 月日 散布量 ℓ				
	シンクイムシ類 ハダニ類		2. アーデントフロアブル 2,000倍（50ml） （前日まで、3回以内）									
⑪ 9月上 旬	灰星病			1. パレード15フロアブル 2,000倍（50ml） （前日まで、2回以内）	500ℓ				500ℓ	散布日 月日 散布量 ℓ		
	アブラムシ類 シンクイムシ類			2. モスピラン顆粒水溶剤㉔ 2,000倍（50g） （前日まで、3回以内）								
⑫ 9月中 下旬	灰星病			1. インダーフロアブル 5,000倍（20ml） （前日まで、4回以内）	500ℓ		500ℓ				散布日 月日 散布量 ℓ	
	シンクイムシ類			2. スカウトフロアブル㉔ 2,000倍（50ml） （前日まで、3回以内）								
（⑬ 9月収 以降 ）後		1. 展着剤（アビオンーE） 1,000倍（100ml）			500ℓ	500ℓ		1. 黒斑病が多発傾向にあるので本防除を徹底する。				散布日 月日 散布量 ℓ
	黒斑病	2. ICボルドー412 30倍（3.3kg）		—								
	コスカシバ	3. フェニックスフロアブル 4,000倍（25ml）		前日まで					2回以内			
前黒㉔ 回斑特 散布病 14日別 後策		1. 展着剤（アビオンーE） 1,000倍（100ml）			500ℓ	500ℓ		1. 黒斑病多発園（果実に被害のある園）で は本防除を徹底する。 2. 黒斑病が特に多い園では、今回の防除14 日後にICボルドー412 30倍（—、—） を更に使用してもよい。	散布日 月日 散布量 ℓ			
	黒斑病	2. ICボルドー412 30倍（3.3kg）		—			—					
萌㉔ （落葉 芽休眠 前後） 期	コスカシバ キクイムシ類	1. ガットキラー乳剤 100倍（1ℓ）		休眠期 （落葉後～ 萌芽前）	1回	200ℓ		散布日 月日 散布量 ℓ				
⑮ 休 眠 期		1. 水 （90ℓ）			400ℓ	400ℓ	1. 例年ふくろみ病の発生が見られる園で は、本防除を徹底するとともに、散布に あたっては、枝先から洗うように丁寧 にたっぷり散布する。	散布日 月日 散布量 ℓ				
		2. 展着剤（アビオンーE） 1,000倍（100ml）										
	越冬病虫害 （ふくろみ病）	3. 石灰硫黄合剤 10倍（10ℓ）		発芽前	—							

耕種的防除

全 般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み 合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々 まで到達しやすいようにする。
灰 星 病	1. 被害花（果）や被害葉、被害枝は見つけし だい摘除し、土中深く埋める。 2. 枯死枝やミイラ果は、見つけしだい摘除し、 適切に処分する。
黒 斑 病	1. 被害葉や被害果は、見つけしだい摘除し、土 中深く埋め園内地表面に放置しない。 2. 風の強い園では、防風対策を徹底する。 3. 樹勢が弱いと発生が多くなるので適切な樹勢 の維持に努める。 4. 降雨時の草刈りは控え、地際まで草刈りをし ないように管理を実施する。

交信かく乱剤(性フェロモン剤)の使用上の注意事項

- 1) 設置場所は、目通りの高さに8割、2割を上部に、
園内均一に設置する。
- 2) できるだけ地域全体で設置する。
- 3) 傾斜上部の設置割合を1～2割多くする。
- 4) 園周辺の立木や、支柱などにも設置する。
- 5) 防風ネットなどを利用する。

すもも施肥基準（成木：10a 当たり）

品目・目標収量		肥 料 名	施肥量 (kg)	施肥時期	N	P	K
すもも 2,000kg	礼 肥	磷酸安加里 S248（わかみどり）	10kg	収穫直後	2.0	0.4	0.8
	基 肥 いずれか	フレッシュフルーツ有機70	80kg	8月下旬～9月上旬	8.0	4.0	1.6
		フレッシュフルーツ有機40	80kg	8月下旬～9月上旬	8.0	3.2	1.6

未結果樹の防除

散 布 時 期	適用病虫害	使 用 薬 剤		収 穫 前 使 用 日 数	総 使 用 回 数
休眠期	越冬病虫害	石灰硫黄合剤	10倍	発芽前	—
4月中旬～下旬	黒 斑 病	ICボルドー412	30倍	—	—
5月上旬～6月上旬 （果箱撤去後）	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 ^㉔	2,000倍	前日まで	3回以内
8月中旬～9月中旬	黒 斑 病	ICボルドー412	30倍	—	—
	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 ^㉔	2,000倍	前日まで	3回以内
		ケムシ類が多い場合はフェニックスフロアブル 4,000倍（前日まで・2回以内） を使用してもよい			
9月下旬～10月上旬	黒 斑 病	ICボルドー412	30倍	—	—
休眠期	コスカシバ キクイムシ類	ガットキラー乳剤	100倍	休眠期 （落葉後～ 萌芽前）	1回